

**施策体系シート(行政経営Bシート)**

作成者	組織	公園緑地課	職	次長兼課長	氏名	丸山 隆史
評価者	組織	公園緑地課	職	次長兼課長	氏名	丸山 隆史

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森の保全と整備	兼六園・金沢城公園の入園者数	千人	3,000 (H27)	2,685 (H22)	2,475 (H23)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題1	兼六園の保存管理の充実	千人	2,100 (H27)	1,638 (H22)	1,549 (H23)	兼六園整備費	県民	99,687	97,180	B	継続
	課題2	金沢城公園の利活用の推進	千人	900 (H27)	1,047 (H22)	926 (H23)	城と庭の魅力発信事業費	県民	10,214	8,441	A	継続

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園整備費	事業開始年度	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	都市公園法

作 組 織	公園緑地課
成 職・氏名	金沢城・兼六園周辺整備G 課長補佐 郷原吉宏
者 電話番号	076 - 225 - 1772 内線 5263

**事業の背景・目的**

兼六園は、加賀藩歴代の藩主により、長い年月をかけて作庭され、江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園の特徴を今に残している。

昭和60年には、庭の国宝ともいえる「特別名勝」に指定されており、今日では国内のみならず、広く世界に誇る庭園である。本県における貴重な歴史的文化遺産であり、適切な管理によって永く後世に引き継いでいく必要がある。

- 事業の概要**
- |  |  |
|--|--|
| <p>1 兼六園施設整備</p> <p>(1) 園路補修</p> <p>(2) 竹垣改修</p> <p>(3) 樹木植栽</p> <p>(4) 園地保全</p> <p>(5) 支柱取り替え</p> <p>(6) その他 小規模施設の補修等</p>                                      | <p>4 兼六園築螺山修復</p> <p>(1) 石垣修復工事</p> <p>(2) 埋蔵文化財調査</p> |
| <p>2 緑地管理委託</p> <p>(1) マツ剪定</p> <p>(2) 生垣・樹木刈込み</p> <p>(3) 雪吊り・取り外し</p> <p>(4) 松くい虫等病虫害防除</p> <p>(5) 外周石垣除草</p> <p>(6) 大河端・奥卯辰山苗圃等の管理</p> <p>(7) その他 散水設備管理等</p> | <p>5 別荘跡修景</p> <p>(1) 樹木植栽</p> <p>(2) 地被類植栽</p>        |
| <p>3 兼六園マツ等保全対策</p> <p>(1) 土中エアレーション＋肥料・殺菌剤・樹木活性化剤の施与</p> <p>(2) 樹木治療(老松等腐朽木治療)</p> <p>(3) 土壌酸化予防対策</p> <p>(4) 樹幹注入</p>  | <p>6 茶店跡修景</p> <p>(1) 藤棚改修</p> <p>(2) 樹木等植栽</p>        |

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策課題	兼六園周辺文化の森の保全と整備				評価	B
	兼六園の保存管理の充実					
	指標	入園者数			単位	千人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	2,100	1,630	1,822	1,832	1,638	1,549

事業費						
	(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	予算	89,963	93,299	96,354	98,429	99,687
	決算	87,685	92,019	94,829	97,465	97,180
財源	一般					
	決算					
事業費累計		458,831	550,850	645,679	743,144	840,324

評価	
項目	評価
事業の有効性	左記の評価の理由
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 東日本大震災や原発事故、冬季の天候不順の影響により、有料化以来、過去最少の入園者数となったが、事業の遂行により、「特別名勝」の適切な保全と利活用が図られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 本県のシンボルであるとともに、貴重な文化遺産である「特別名勝」を後世に引き継ぐ上で、事業の必要性は極めて高い。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 城と庭の魅力発信事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等	都市公園法		

作組	織	公園緑地課			
成職	氏名	金沢城・兼六園周辺整備G 課長補佐 郷原吉宏			
者電	話番	076 - 225 - 1772 内線 5263			

**事業の背景・目的**

「金沢城」とその外庭である「兼六園」を一体として、「学習」「案内」「もてなし」の三本柱により、城と庭の魅力を国内外に発信する。

**事業の概要**

- 学習事業
  - 城の歴史、文化的背景を交えた解説講座(金沢城大学)の実施
    - ・玉泉院丸跡の歴史や、発掘調査の状況を解説する講座など
- 案内事業
  - ボランティアガイドによる案内
    - ・石川門、三十間長屋などの公開日の拡大と、ボランティアガイドの常駐等
    - 外国人向けガイドの体制強化
      - ・外国人向けボランティアガイドの養成及び、ガイドの常駐化等
    - ガイドツアーの実施
      - ・発掘現場等を案内するガイドツアーの実施
  - もてなし事業
    - 四季折々の城と庭の魅力紹介
      - ・城と庭の魅力を再発見し、親しんでもらう催事の実施

**これまでの見直し状況**

重要文化財である「石川門、三十間長屋」の公開日の拡大、ボランティアガイドの体制強化、玉泉院丸跡を巡るガイドツアーの実施など、事業の体制強化を図った。

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森の保全と整備				評価	B
課題	金沢城公園の利活用の推進					
指標	入園者数				単位	千人
目標値	現状値					
平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
900	810	883	1,011	1,047	926	
事業費						
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
事業費 予算	8,720	6,976	6,500	5,200	10,214	
一般 決算	8,548	6,799	6,411	5,190	8,441	
財源 決算						
事業費累計	19,620	26,419	32,830	38,020	46,461	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	金沢城公園は、兼六園とともに、本県のシンボルであり、また、県民共有の財産である。その価値と魅力を県内外に広く理解し、堪能していただくため、「学習」「案内」「もてなし」を柱とする「城と庭」の一体的な利用促進に取り組んでいる。入園者は、東日本大震災や冬季の天候不順により、やや伸び悩んだが、当初の目標は上回っており、効果はあった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	今後も、城郭の魅力を活かしたイベント等の充実や外国人誘客の推進に取り組むほか、HPによる情報発信の充実を図り、現在の英語版に加え、新たに中国語は簡体、繁体の2種類及び韓国語版を追加するなどおもてなしの充実と情報発信の向上に努めていく。				